



軽米町からのお知らせを見ることができるデータ放送画面

また、役場からのお知らせや、イベントカレンダー、夜間・休日当番医などを確認することもでき、非常に便利です。

視察研修から

見えてきた課題

1つ目の課題は膨大な事業費の確保です。補助金を利用する場合には要件を満たす必要がありますが、本町で同じような事業を行うことになった場合に、軽米町と同じように少ない負担で事業に着手することができ

という課題があります。

2つ目の課題は、事業導入後に掛かる経費です。軽米町では、この事業により光伝送路使用料など、年間約1400万円程度の収入があります。かかるまいテレビ番組作成委託料など、約3950万円の支出も発生しています。

将来の町への負担なども検討しなければならぬため、コスト面については慎重に検討することが必要です。

洋野町

学校給食事業の概要

平成27年4月27日に完成した種市学校給食センター。改築工事の総事業費は約7億8千万円で、そのうち国からの補助を除いた町の負担は約7億1千万円です。

調理能力は1500食で、小学校4校、中学校3校、幼稚園1園、高校1校の合計9カ所に配食しています。

年間の事業委託料は

約3500万円

給食センターの運営は21人で行っており、町の職員2人を除いた19人は「洋野町種市学校給食協会」という任意団体の職員です。町は給食協会に、給食の調理、集配送業務を委託しており、負担金という形で年間約3500万円を支払っています。

また、年間に掛かる光熱水費を約1500万円と見込んでいます。



洗い場と調理場の間の食材受け渡し場所

1食当たりの給食費は

約250円

1食当たりの給食費は、幼稚園が212円、小学校が257円、中学校が280円、高校が179円となっています。高校は副食(おかず)のみの提供のため、その分安くなっています。また、高校については希望する人のみに提供しています。



肘で水を出すことができます

衛生管理に対する工夫

給食センターは衛生管理に気を配ったつくりとなっていました。

調理者の移動を最小限にするため、食材の洗い場と調理場を2重の窓のようなもので仕切り、食材のみを移動させるようにしたり、蛇口をひねらなくても足や肘で水を出せるようにしたり、ほこりがたまらないようにシンクを斜めにしたりと、など、非常に細かなこと

ろで衛生管理に配慮した工夫が見受けられました。

視察研修から

見えてきた課題

種市給食センターでは停電時に施設を活用できないという課題があるとのことでした。

本町においても、災害時に施設を稼働することができれば、非常に有用な施設となります。そのためには、発電機の整備などを行い、災害時にも対応できるように給食センターとすることが、議論が必要です。

今回の視察研修は、本町が今後行う可能性のある事業について視察研修を行いました。議会のチェック機能、政策提言機能を発揮する上で、今回の研修内容を十分に生かしていきたいと思